NEWS 山梨県は誕生150年の節目を迎えました

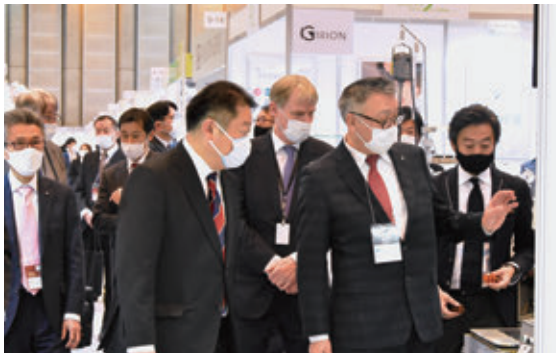
最優秀賞に輝いた佐野栞梨さんの表彰式

明治4（1871）年に県の名称が山梨県と改められてから、令和3年11月20日で150年の節目を迎えました。これを祝し、山梨県誕生150年記念式典を開催しました。

式典では、山梨県誕生150年の歴史や地域資源などを紹介した動画が上映され、登壇した長崎知事は「山梨には世界に誇るべき地域資源が数多くあり、これを山梨の発展と成長へつなげていく」と今後の決意を語りました。また、誕生150年を記念して実施した「未来の山梨を描く絵画コンテスト」の表彰式では、応募作品43点の中から最優秀賞に選ばれた、笛吹市立石和西小学校の佐野栞梨（かんな）さんに、長崎知事から賞状が手渡されました。

今後も、皆さんにふるさと山梨への誇りや愛着をより深めていただけるよう取り組んでいきます。

NEWS 日本最大級の宝飾イベントを山梨で開催！



上：会場を視察した長崎知事
左：水越真子さんの作品「とまと」（提供：一般社団法人日本ジュエリー協会）

世界屈指のジュエリー加工・製造技術を持つ地元企業から業界をけん引する大手メーカーまで、ジュエリーに携わる企業が一堂に会する国内最大規模の宝飾展示会「ジャパンジュエリーフェア」が、昨年11月24日から3日間にわたり甲府市内で開催されました。このイベントは例年東京都内で開催されていましたが、今回は初の試みとして日本最大のジュエリー産地である山梨県で開催されることとなりました。

初日には「JJAジュエリーデザインアワード2021」の表彰式が行われ、新人優秀賞・ジュエリー議員連盟賞に選ばれた水越真子さん（県立宝石美術専門学校卒業）の作品が紹介されました。

期間中には、県内企業との商談会や工場見学ツアー、県立宝石美術専門学校准教授によるセミナーなども行われ、国内外のジュエリー関係者に、山梨の宝飾技術をPRする絶好の機会となりました。

こうした機会を通じて、本県の宝飾技術や製品の質の高さが広く認められて「やまなし」という地域のブランド価値も高まることが期待されます。

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。

NEWS 「吉田中学校」がつなぐ山梨県と静岡県の交流

吉田中学校（山梨）の生徒代表から川勝知事へ返礼の品が手渡された

生徒たちがデザインし、制作した木札とコースター

昨年4月、静岡県から山梨県に両県の名所や特産品などをデザインした缶バッジが贈られました。これは、静岡県吉田町立吉田中学校の生徒が、両県の特産品を購入し合う「バイ・ふじのくに」の取り組みを知り、このつながりが活性化するよう願いを込めて作ったものです。県では、感謝の気持ちを形にしようと、同じ校名を持つ富士吉田市立吉田中学校に相談したところ、返礼の品の制作が実現しました。

返礼の品のテーマは、静岡県の文化や伝統を学んだ上で「道も心も文化もつながる」と決め、毎年富士登山の記念に制作している木札を両県のコラボデザインで作ることにしました。また、静岡県の特産品であるお茶の湯飲みが置けるよう、富士吉田市の伝統的な織物の端切れを再利用したコースターも贈ることにしました。

これら返礼の品は、11月に道の駅富士川で行われた、静岡県の特産品を集めた「つながる市」の会場で、静岡県の川勝知事に手渡されました。生徒会の堀内会長は「この作品を通して両県の交流が深まるよう願っています」と話し、川勝知事は「本県の吉田中学校に届けるとともに『バイ・ふじのくに』の心と文化の交流のシンボルとして県庁に飾り、多くの県民に伝えたい」と語りました。

これをきっかけに、両校では新たな伝統として交流を始めていくとのことです。こうした生徒たちの思いが、山梨県と静岡県のさらなる交流につながることを期待しています。

NEWS 障害者文化芸術フェスティバルを開催

躍動感のあるダンスを披露

県では昨年11月、障害のある方が日頃から取り組んでいる文化芸術活動の成果を披露する「障害者文化芸術フェスティバル」を開催しました。

甲府市内で行ったオープニングセレモニーでは障害のある方がダンスを発表し、会場を盛り上げました。また開催期間中には、県下全域から応募のあった文化芸術作品の展覧会や障害者就労施設などによる物品販売会、バリアフリー演劇の鑑賞会なども実施し、多くの方が熱心に見入っていました。

文化芸術活動には他者との相互理解を深める力があることから、今後もこうした機会を充実させ、誰もが互いを尊重し支え合う共生社会の実現に向けて取り組んでいきます。

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。